令和６年度未来を創る学力向上支援事業に係る
未来を創る授業力向上会議（中学校外国語）

１　目的

各中学校及び義務教育学校後期課程の外国語科担当の教員等を対象に、言語活動の充実に向けた授業改善や、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに関する説明・講義等を行うことにより、外国語科教員の授業力向上に資する。

２　主催　大分県教育委員会
３　期日　令和６年９月２７日（金）１３：３０～１６：２０
４　場所　ホルトホール大分
５　内容

（１）開会行事 大分県教育委員会あいさつ ＜義務教育課 課長 小野 勇一＞

学力調査の結果から課題を捉え、実践に活かしていくことが重要。低学力層の増加や知識・技能の定着が本県の課題。言語活動の実施率は高まっているが、資質能力の育成においてもご尽力いただきたい。

（２）行政説明・協議

「大分県における外国語科の課題と授業改善」

〈説明者〉大分県教育庁義務教育課 指導主事 二宮　健吾

〇外国語の現状

・CEFRA1 レベル相当以上を達成した中学生の割合が増加
・正答率 40%以下の低学力層の割合が高い（52.4%）
・大分県学力定着状況調査において、低学力層の割合は
　R4 33% R5 33% R6 38%と上昇
・大分県学力定着状況調査において、知識・技能が偏差値 50 を
　下回る（知識 49.7 / 活用 50.5）

〇大分県における外国語の課題

課題①「低学力層の底上げのための授業改善」
課題②「知識及び技能を確実に定着させるための授業改善」
※小中連携を推進し、第１学年において小学校の学びを生かした指導の充実を図ることが肝要

〇課題解決に向けた取組について

課題①「低学力層の底上げのための授業改善」に向けて

・小学校での指導を知り、中学校での指導に生かすことが肝要
・小中連携の段階は「情報交換」→「交流」→「カリキュラムや到達目標の設定」
・小学校外国語の目標について確認（書くこと－読むこと）
　※小学校では、綴りを覚えて書けるようになるまでは求められていない。
　※小学校では「音声と文字」の指導をし、「発音と綴り」は中学校で指導する。
・臼杵市の取組の紹介：小学校の最後のテストと中学校の最初のテストを共有
・由布市の取組の紹介：スタートカリキュラムの作成及び教材の共有

課題②「知識及び技能の定着のための授業改善」に向けて

・言語活動を通した指導を充実させるとともに、各種練習を効果的に取り入れることが肝要
　※言語活動と練習を効果的に組み合わせることや、確実な見取りが大切
　※与えすぎ、示しすぎに注意しながらの指導が肝要
・知識及び技能を確実に定着させるための授業改善について情報を得るために、橋本 和恵指導教諭の授業動画を視聴

○〈協議①〉

内容「知識及び技能の習得を目指して、単元の第１時を指導する際、どのような学習活動・留意点に基づいて実施することが望ましいか。」

・教科書を活用し、授業を構想

※指定された単元における、第１時間目の学習活動・留意点（工夫点）についてまとめる

〈K グループ〉第１時間目の授業構想について

①目的：小学生の学びを思い出させる。例 enjoy play　など

②APU の留学生に伝えることを伝え単元のゴールを意識させる。(目的・場面・状況の明確化)

③スモールトークⅠ…小学校での学びを活用してとりあえず話させる。

④留学生のビデオを見せる。

※「知りたい」「聞きたい」など相手の情報を動画に入れ込み相手意識を高めさせる。

⑤スモールトークⅡ…APU の留学生を意識させて話させる。

⑥中間指導を行い「言いたかった」「言えなかった」を確認する。

⑦スモールトークⅠ・Ⅱにおいてどんなところが変化したかを確認する。

⑧「もっと言いたかった」という感情をあえて残し、次回の授業へ学びをつなげる。

（３）講　義

「指導と評価の一体化に向けた外国語科における授業改善」

〈講　師〉国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部　教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局教育課程課　外国語教育推進室　教科調査官

入之内　昌徳　氏

○ALT の活用状況について

・大分県は他の自治体よりも活用率が高い

・ALT が「聞いてみたい」、「知りたい」、「教えて欲しい」そう思えるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定することも大切

・大分県教育委員会の取組「APU 学生との交流」は、地域人材の効果的な活用事例

・ALT との連携が多くなると、教師の英語活用が増加傾向

○リーディング DX スクール事業特別講座２０２３視聴

・外国語教育での「自己選択」・「自己決定」について

※明確な目的や場面、状況を設定することで、生徒自身が「伝えてみたい」という思いを想起し、どのような言葉を使うか、表現方法を選択し、自己決定を繰り返すことが可能になる。

○小中接続の充実に向けて

・オンラインの活用により、小中の壁を超えたスピーチ活動が可能

・中学校１年生の授業で４線黒板を活用するなど小学校の指導との継続が重要

・中学校の先生をパフォーマンステストの評価者として活用するなど工夫が必要

○生徒の英語力向上に関する分析と今後の取り組みについて

・経済的困窮にある生徒も、言語活動に取り組む生徒は正答率が上昇傾向

・ティーチャートークで先生が積極的に自分を語ることが肝要（オープンマインド）

※ただし、生徒の理解の程度に応じた英語を使用する必要がある。

・言語活動がどの資質・能力を育んでいるのか、つけたい力の明確化が肝要

○令和５年度　全国学力・学習状況調査から見える主な成果と課題

・やりとり中心、思考を深める活動に加え、正確さに焦点を当てた教師からのフィードバックが適切に行われることが肝要

・言語活動の目的や場面、状況等が明確に設定されておらず、生徒が言語活動に取り組む必然

性を十分に意識できていない可能性があるのではないか

〇観点別目標について

・アから指導し、段階的にイ・ウへ指導を進めていくなど見通しのある指導が必要
・指導においては原稿読みからメモを頼りに表現できる力を育成することが肝要

〇言語活動について

・単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が目的や場面を意識できることが大切
・目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できることが必要

〇学習指導要領を具体化した後藤知子指導教諭の授業から学べること

・「聞くこと」を目的にしている活動においても、教科書を「読むこと」や教科書の内容に対して考えを「書くこと」など、技能を統合した授業構想
・「聞くこと」においてメモを取らせることを徹底した指導
・教科書から大きく離れるのではなく、教科書の内容について ALT の考えを聞いたり、それに答えたりするなど、目的・場面・状況の明確化
・ALT の効果的な活用
・生徒とのやりとりを授業内で繰り返し行うなど、言語活動の即興性の担保
・言語材料を言語活動と効果的に関連付けた指導
・効果的な板書の活用
・させっぱなしにしない、確実な見取りの工夫

〇AI や ICT の効果的な活用について

・MEXCBT を活用した英語「話すこと」「書くこと」の教科について
※テストに加え、回答や解説及び練習まで可能
・AI 等のデジタル技術を活用したツールの紹介

〇ICT 機器の活用について

・活用することが目的ではなく、育成したい資質能力を育むために活用することが肝要

〇おわりに

・曖昧さに耐える、失敗を恐れない態度、相互の信頼と尊敬、動機づけとなるフィードバックを行うことが大切
・安易に教育機器に頼りすぎたり、技術的な手法に凝りすぎたりすることには十分注意が必要
・教師がコミュニケーションの手段として英語を積極的に使ってコミュニケーションを行うことが必要
・教育機器の活用は、指導を補い助けていく上で効果的